令和８年度第１回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日　　時：令和８年６月 11 日（木）14：00～16：30
方　　法：WEB
出 席 者：【ZOOM 参加】９名
奥平藤也（県立中部病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、岩崎奈々子(県立八重山病院)、横田美佐（県立宮古病院）、田場純子(沖縄県保健医療介護部)、友利晃子（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）
欠 席 者： 間島奈央子（キャンサーフィットネス）、上原弘美（友愛医療センター）、西村克敏(地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）
陪 席 者：なし

【報告事項】
１．令和７年度第４回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和８年３月 12 日）
資料１に基づき、奥平委員より、令和７年度第４回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

２．今年度の委員について
資料２に基づき、今年度部会長に中部病院 奥平委員、副部会長には琉球大学病院 友利委員と那覇市立病院から糸数委員を選任したことが報告された。部会委員構成は資料の通り。

【協議事項】
１．令和８年度部会計画
資料３に基づき、がん対策推進計画（協議会版）をもとに、部会計画案について検討し承認された。活動計画の詳細については、引き続き検討することとなった。

２．令和８年度地域相談支援フォーラム in 沖縄の開催について
資料４に基づき、友利委員より開催概要案について説明があった。テーマとグループワークの内容について、「自部署だけで抱え込まず」とするより、主語を「相談員自身」とする方が全体のテーマに沿っており、意見が出やすいのではないかと提案がありそのように訂正された。他、新しい案は特になかった。講師は内定したと報告された。

３．第４次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）中間評価について
資料５に基づき、増田委員不在につき、紙面報告となった。相談支援部会委員へは、ロジックモデル進捗管理シートや個別施策シート評価結果の判定後に、コメント記入を依頼される予定。

【報告事項】

３．第 26 回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会

資料 6 に基づき、友利委員より報告があった。

- 令和 11 年の第５期がん対策基本計画の改定を見据えて、３年サイクルの整備指針見直しのスケジュールに変更すると、厚労省の技官より説明があった。ゲノムと小児の整備指針改定も同時に行い、7 月頃にまとめて新整備指針を公表する予定。これまでのがん対策は医療の均てん化を進めてきたが、人口減少や高齢者の増加を踏まえ集約化も推進していく。現在の指針内の望ましい要件のうち充足率が一定数を超えるものは、経過措置の上で必須要件へ格上げすることを検討している。部会としても整備指針改定に向け、運営委員会でロジックモデル案をもとに論点を整理した原案を作成している。5/28 開催の指定要件に関するワーキンググループの資料として協議会(親会)より提出予定である。提案内容としては、①病院幹部や医療関係者に「不採算部門」と誤解されぬよう、日本のがん医療を支える重要部署であることの理解を求める②都道府県および都道府県連携協議会、そして地域の関係者（医療・介護・福祉等）とネットワークを構築し、地域全体で患者、家族等を支えることの重要性を提言する。③多職種の配置、段階的な人員の拡充の検討を提言する。
- PDCA 実施状況チェックリスト全国収集の結果報告があった。あくまで、各施設の実務者による自己評価となっており、自己評価数値が低い箇所は施設の管理者が整備の協力をしていただきたい点と理解して、各県の運営に役立ててほしい。2 年ごとにアンケートを行う予定。
- 部会版ロジックモデル案について。相談支援部会の活動に特化した項目に絞り込めてきた。がん相談の現場の負担感や、現実との乖離、整合性について今後も議論したい。
- ロジックモデルは全体の設計図であり、PDCA チェックリストは日常の活動の改善のツールとして理解してほしい。
- 相談記入シートの改定について、アンケート協力のお礼とともに、がん相談支援センター相談記入シート V.3.0 を提示したことが報告された。今後は入力、集計ツールならびに説明ビデオを作成しがん情報サービスにて掲載予定、令和 9 年 1 月 1 日より運用できる。
- フィードバック体制の整備に向けた共通質問項目が作成された。ロジックモデルの評価指標としても活用できるよう、全国で用いられている項目や過去の研究班作成の項目を参考にした。本アンケートの共通項目は、6 月中旬を目安にがん情報サービス上に掲載する予定である。各地域で既存のアンケートがある場合には、使いやすい形で共通項目を取り入れてもよい。

４．令和７年度第２回がん相談従事者研修会の開催について

資料７に基づき、大久保委員よりがん医療の集約化に関する研修会の開催報告があった。参加者 22 人、所属機関は拠点病院が 15 人、非拠点が 5 人であった。アンケート結果は別紙のとおり。

５．地域統括相談支援センター活動報告

資料８について、紙面報告があった。

６．がん患者ゆんたく会（令和８年1～3月）

資料 9-1～9-3 に基づき、令和８年１月～3月に各拠点病院にて開催されたがん患者ゆんたく会について報告があった。

○中部病院（玉城委員）

1月2月3月、各回ともリピーターが多く、それぞれの近況を報告し合いながら、和気あいあいとした雰囲気であった。

○那覇市立病院（糸数委員）

1月と3月に開催。1月は外科の先生より「医師とのコミュニケーション」のテーマで講演いただいた。ご家族の立場から、医師の対応について不満を吐露する場面があり、一瞬場の雰囲気に緊張が走ったが、講師の医師が上手に傾聴していた。3月はキャンサーフィットネスの間島さんを講師に招き、椅子に座ったままできる椅子ヨガを教えて頂いた。呼吸法も併せて行う事でリラックス効果があり好評だった。

○琉球大学病院（友利委員）

アピアランスケア、治療中の食事と栄養、乳がん患者会の講演を企画。1月は年明けという事もあり参加者6名と少なかったが、2月3月と参加者が増加。どちらかというと新規の参加者が多かった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

2月に開催したが患者さん・家族の参加はなかった。ピンクパンサーから参加があった。今年度は３回開催日を決定し広報。テーマ（勉強会）の検討もしたが、テーマを決める事で内容によっては興味の問題もあり参加しない方もいるのでは？と意見もあり、今年度まではフリートークのみの予定。

７．がん相談件数（令和８年1～3月）

資料 10-1～10-6 に基づき、令和８年１月～3月の各拠点病院のがん相談件数と内容について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

1月 51 件、2月 60 件、3月 50 件。これまでと大きな変わりはない、訪問診療があるため訪問看護との連携が多かった。

○県立中部病院（玉城委員）

1月 107 件、2月 89 件、3月 142 件。相談内容は、在宅調整やホスピスの調整、不安や精神面での相談増えている印象。院外からの相談は少ない傾向。再発がわかった後に通院が途絶えがちになり、ご家族や他機関と連携して訪問診療の導入などを支援してケースがあった。

○那覇市立病院（糸数委員）

1月 121 件、2月 142 件、3月 91 件。相談時間に特徴がある。がんサポート外来で告知後にスクリーニングをする取り組みがあり、そこからの介入依頼で相談員も支援に入るケースが増えた。点滴センターからも社会的な相談依頼が入ることもあり、治療や医

療費だけでなく仕事に関する相談の拾い上げもできている。

〇県立宮古病院（横田委員）

1 月 68 件、2 月 71 件、3 月 75 件。相談内容の傾向は変わらない。最近は院内からの相談も増えてきていて、相談支援センターの院内周知が進んできた印象。入院患者さんのご家族と病棟スタッフ間のコミュニケーションを支援するために介入したケースがあった。

〇県立八重山病院（岩崎委員）

1 月 66 件、2 月 58 件、3 月 60 件。相談内容の傾向は大きく変わらない。医療費の未払いが発生しているケースについて報告があった。

〇琉球大学病院（大久保委員）

1 月 111 件、2 月 103 件、3 月 131 件。短時間の相談が中心になってきており、どちらかというと計画的な相談より、治療前後や診療の隙間時間での相談室利用という特徴が見えてきた。利用回数も新規の方の割合が増えてきた。治療状況の項目でも治療中の方が約４割、治療前が訳３割、に変化している。医療費や収入源への不安はほぼ全患者に潜在的なニーズあり、相談の動機になりやすい印象と報告があった。

８．がん相談件数集計（令和 7 年 10 月～12 月）

資料 10 に基づき、友利委員より、各拠点病院の集計比較について報告があった。

昨年度同時期と比較して、相談件数に大きな変化はない。相談経路は、院内職種からの紹介が多い。治療開始前の利用は微増。がんの部位別の相談内容は、大腸がん、肺癌、口腔・耳鼻咽喉の癌に関する相談が多い。相談内容は、「精神的苦痛・不安に関する相談」が最多、次いで「在宅医療に関する相談」「ホスピス・緩和ケアに関する相談」が多かった。

９．がん相談支援センターの広報（令和 7 年 10～12 月）

資料 11 に基づき、友利委員よりがん相談支援センターの広報について、新聞無料広告欄の掲載状況の報告があった。掲載頻度にはばらつきがあるが、引き続き掲載依頼を継続する。

10．その他

○　友利委員より、がん相談支援センターでの妊孕性に関する相談実施状況について質問があった。各施設からは、件数は年数件程度で、すべてがん相談支援センターを通るわけでなく、別の部署（外来看護、緩和ケア、がんサポート外来等の看護師等）が関わることが多いと回答があった。相談支援センターでは冊子を使いながら補助金の説明や、他機関への調整を行うことがある。情報がなくて相談に来たというよりは、各診療科である程度方針がきまった段階で相談支援センターへ来所し、情報提供の補足や実施施設への紹介を調整する場合が多いと回答があった。施設によっては、医師間で直接連絡を取り合って紹介・調整されている場合もあると回答があった。

○　次回開催について、令和 8 年 9 月 3 日（木）14 時からオンライン開催予定。